

## 縫って作る “布”の造形

自分でデザインしたぬいぐるみを作ってみましょう！  
布がもつ柔らかさやしなやかさを生かした造形プログラム  
を紹介します。



### 「スケテラー」

丸みのある身体に短い手足、そして愛らしい表情など、ぬいぐるみ特有の姿形に心が癒される人は、世代や性別を問わず多いのではないのでしょうか。このプログラムでは、布を造形素材に、ふんわりとやさしい触り心地のぬいぐるみを作ります。メインの布にシースルーの紗（しゃ）を使うので、中に詰める布によって身体の色や柄が変わります。

本体の形は丸や楕円、四角など単純な形で、なるべく大きめにデザインすることが大切です。複雑な形、例えば星形や動物の詳細な形などは、縫う作業が大変になるばかりか、布を詰めることが困難になるので、できるだけシンプルな形にしましょう。

次に縫い方ですが、気をつけるところは縫い目が大きくなり過ぎないようにすることです（中身が出ないようにし

ます）。ただし、裁縫をすることがメインではないので、縫い目が多少ガタガタしていても、ところどころ間違っただけなら縫いになっていても大丈夫です。

作り方⑥と⑧で使うのりは、布が接着できるスティックタイプののりが、粘りと速乾性があって便利です。普通の文房具屋さんで、百円程度で手に入ります。木工用ボンドは、なかなか乾かないため、このプログラムには向きません。

また、制作に入る前に、「動物をつくろう」、「野菜や果物をつくろう」など、テーマを決め、関連した絵本の読み聞かせや写真集などを見て、子どもたちの気持ちを高めておくと、スムーズに制作へと進むことができます。

通常の造形活動では、紙や木などの素材同士を接着するとき、のりや接着剤等で「面」で接着をしますが、造形活動に裁縫の手法を用いると、布同士を糸で「点と線」でつなぐことになり、素材の選択や接着の方法の幅が広がります。

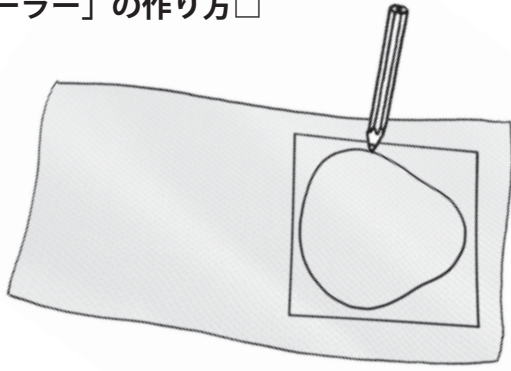
この方法は、布という素材が持つ柔らかさやしなやかさを生かした作品作りを行うことができます。しかし、針と糸を使った造形活動は同じ小学生でも、高学年に向いているプログラムと言えます。ここでは、低学年からでも造形遊びを通じて取り組める、針を使わない裁縫の

手法をとりあげてみます。

作り方は、基本的に「スケテラー」と一緒ですが、針の代わりに穴開けポンチを、縫い糸には毛糸を使います。クリップでとめた（表と裏がずれないように、なるべく多くとめます）布に、下描きの線に沿って指の幅ほどの間隔で穴を開けたら、毛糸をポンチ穴に通していくだけです。

このとき、毛糸の片端にセロハンテープを巻いて細く硬くしておくと、作業が簡単にできるようになります。

□「スケテラー」の作り方□



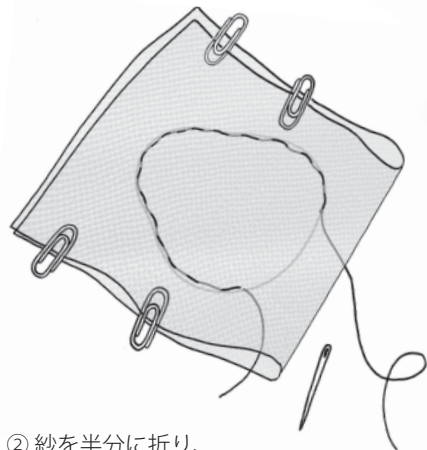
①下描き用紙に本体の下絵を大きめに描き、紗に鉛筆で写します。

□「スケテラー」作りで使う道具□

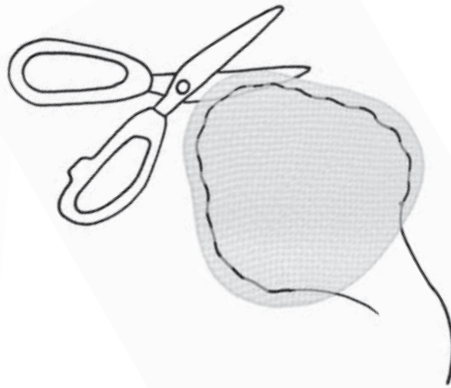
鉛筆/クリップ/縫い針  
スティックのり (布を接着できるもの)

□「スケテラー」の材料□

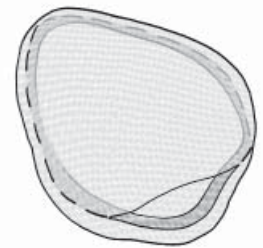
- ①下描き用紙 (15cm × 15cm)
- ②薄手の紗 (15cm × 30cm)
- ③色柄ものの布各種 (15cm × 15cm ぐらい)
- ④わた
- ⑤布の端切れ
- ⑥毛糸 (飾り用)



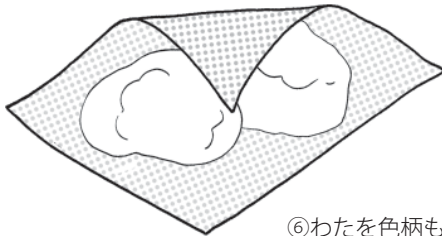
- ② 紗を半分に折り、ずれないようにクリップで四隅をとめます。
- ③ 鉛筆の線に沿って、波縫いをします。



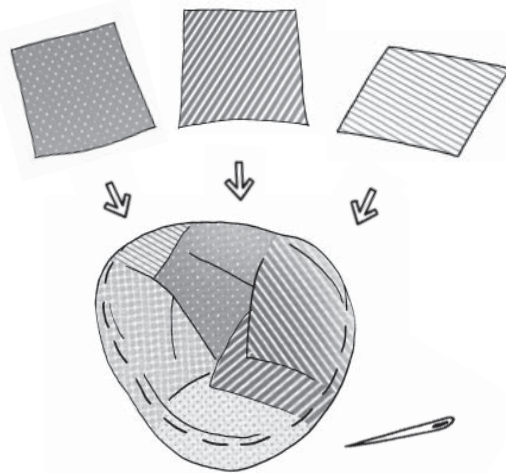
④ 縫い残しが指3本分くらいになったら、縫い目の外側の余分な紗を切り落とします。



⑤ 紗の内と外を裏返します。

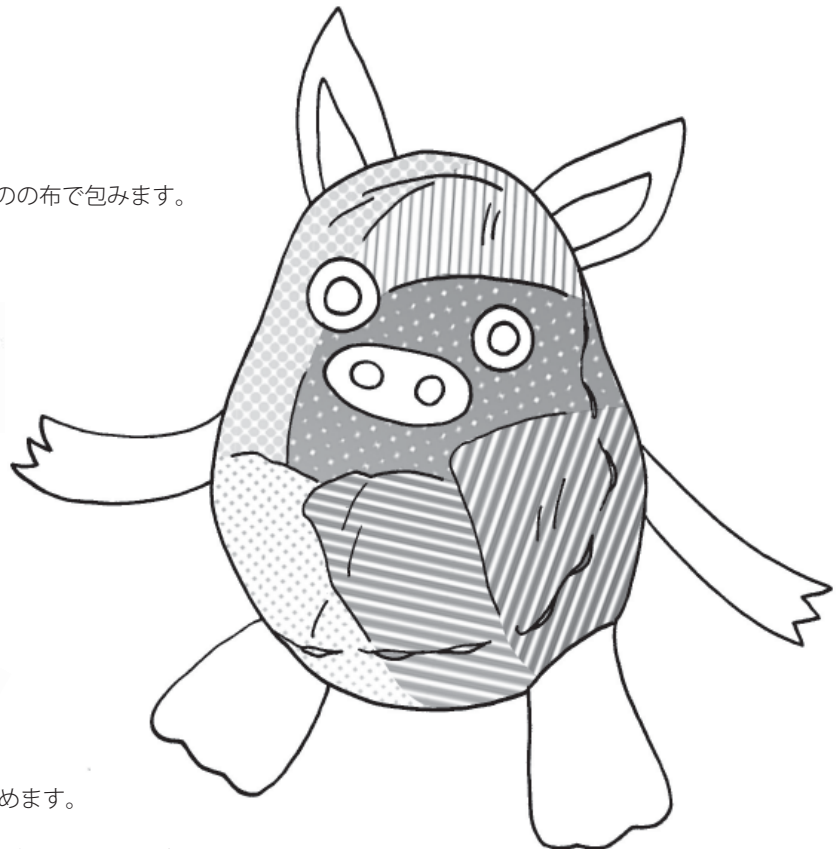


⑥ わたを色柄ものの布で包みます。



⑦ ⑥の布を紗布の中に他の布の端切れと一緒につめます。

⑧ 紗布の開口部は、縫ってふさぎます。(玉止めを忘れないように)



⑨ 端切れで飾り付けをして、できあがりです。

イラスト：横須賀ヨシユキ